

福竜丸だより

都立・第五福竜丸展示館ニュース

(財) 第五福竜丸平和協会

〒136 東京都江東区夢の島3-2
都立・第五福竜丸展示館内
電話 (521) 8494

● 100万人参観者運動を

84年8月来館者数	5,268名
通算1カ月平均来館者数	4,946名
当月1日平均来館者数	195名
通算来館者数	489,653名

一滴を大河に

今年中原爆忌作品・ほか

石川貞夫

被爆図のあなたを消しに花種
すく

権藤義隆

この句が今年、第十五回原爆忌
東京俳句大会のトップである、都
知事賞作品です。

「消しに」を疑問に感じる人も
いますが、これは単に、抹消や忘
却ではありません。

△目を背けたくなくなるような被爆
図の酷さ。まるで人間であること
を失ったような、無数の「あなた」
人間が人間でなくされるような現
実を「消しに」、人間である「あ
なた」の復活を希い私は——Vと
読みとれます。

人間が人間でなくなるのが戦争
であり、そのもつとも完璧なもの
が核戦争です。人間が人間である
ことを曇りなく希うとき、どうし
ても今の核状況と対決せざるをえ
ません。

原爆忌東京俳句大会は、こうし
て全国の平和を愛する俳人に支え

られ、歩みつづけて来ました。一
滴の水はどんなに小さくても、や
がて大河になることもできる。一
回一回を、そう念じながら取り
組んで来ました。

ひと粒つつ雨に貌あるひろし
ま忌

松坂凡平

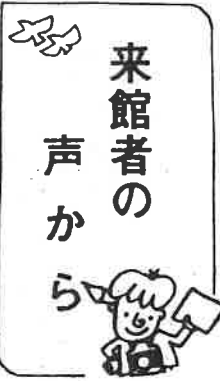
第五福竜丸平和協会賞となった
この句も、ひと粒つつに平和への
深い希求をこめて表現し、感動を
よびました。

ずかずかと来て被爆図に顎突
きだした

西川隆

この句から、中曽根首相をピン
と感ずる人が多いのではないでし
ょうか。

去年、広島を訪れたわが、不沈
空母首相は、被爆者を前に「原
爆症は気の持ちよう」と言わんば
かりの発言をし、大きな怒りを買
いました。その首相がぬけぬけと
「原爆忌」作品をつくり、俳句総



来館者の 声から

今日僕は第五福竜丸を見に来た。
とても悲しいと思う。写真が物語
っているように、核のおそろしさ
を感じさせられた。本当に胸が痛
い思いでした。(浦安高校二一A、
Y・Oより)。

今も苦しむ人々。一秒でも早く、
核をなくしてほしいです。(相武台
中一八、M・B)。

まつ白船君へ

まつ白船君、わたしたちは、3
月1日に、毎年君が海であったお
話を聞いて勉強します。
わたしたちは、勉強して、「せ
んそう反対」というのが出ました。
わたしも、せんそうは、反対です。
けれど、どうしたらせんそうがな
くなると思いますか。わたしたち
の組のたかほ君が、「アメリカに
手紙を、書いたらいいんじゃない」

*

こんな心に残るような展示を見
れてよかった。テレビとか本で見
るより、実際に見た方がとても印
象に残った。現在いつおこるかも
しれない戦争をやめさせるために
我々高校生ができることといっ
たら、いっそう理解を深め、多くの
人たちに知ってもらうことだと思
う。

*

昨年の秋につづいて、今回は横
浜から中学校の生徒とともに訪れ
ました。あらためて、アメリカの
核実験の非人道的な行為に強い
かりを感じています。私にできる

と言いました。わたしも、それが
いいと思います。わたしたちが大
人になったら、せんそうのない平
和な世界にしたいと思います。
わたしは、お父さんが、船にの
って出る時、「お父さん、気をつ
けてね」と心の中で言います。お
きに出た時はとても心配でしたが
ません。それでは、お元気で、さ
ようなら(大分県保戸島小三年、
高司美和)。



ことは小さいかもしれませんが、
これからも平和に役立つことをや
っていきたいと思います。いっし
よに来た中学生(一年生)六名は、
いっしょうけんめい説明を聞いて
いました。どんな風に感じてくれ
たのか、いのちの重みをやがて実
感する日は遠くないと思ひ、信
じます(横浜、中村英美子)。

船を見つめる瞳 三鷹市見学会
に参加した少女(84・8・28)

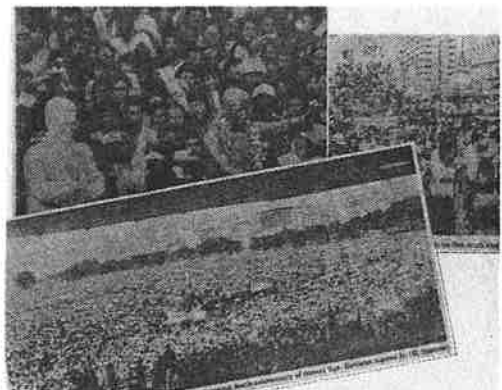
編集後記

▼「小さいけれど、どんなしけに
もまけない船と乗組員たちのたく
ましさは保戸島のほりです」
——大分県保戸島は一五〇そのマ
グロ漁船をかかえる全国有数のマ
グロ漁船団の基地。その多くがミ
クロネシア海域で操業している。
また、第五福竜丸の乗組員には、
保戸島出身が二人いた。「お父さ
はだいじょうぶだろうか」と、保
戸島小学校では毎年三月一日、平
和学習を行なっている。今年も保
戸島小学校の子どもたちからたく
さんの手紙が送られてきた。

▼前号のNHKの工藤敏樹さんの
「『廃船』から今」に対し、読者
から「感動した。『核戦争後の地
球』についても書いてほしい」と、
手紙をいただいた。早速、工藤さ
んにお願したところ、番組の再
放送が決まり、スタッフは夏休み
返上の忙しさのため次号に、との
ことになりました。

▼JCI奨励賞を受賞した「月刊
考える高校生」9月号のアンケ
ー特集では、高校生の一番の関心
は「核問題」。——高校生の見学が
あいつぐ、八月であった。(は)





ベニグノ・アキノ氏暗殺事件から一周年をむかえた8月21日、フィリピン全土でアキノ哀悼のラリーや集会が繰り広げられた。

首都圏マニラでは20日夜、6時よりアキノ家から葬儀の行なわれたサント・ドミンゴ教会までキャンドルを手にした市民の行進が行なわれた。この行進には、日本の原水爆禁止世界大会に参加し、第五福竜丸展示館を訪ねたことのあるシスター・アイダやフィリピン

現地ルポ・アキノ氏暗殺事件から一年

ジャーナリスト 桐生 広人

反基地連合のメンバーの顔もあった。21日のアキノ哀悼集会には首都圏マニラはもとより、地方からもバスなどで集会にかけつけ、それぞれアキノカラーである黄色の小旗、Tシャツ、ヘアバンドで哀悼の意を示した。行進は首都圏マニラの4カ所から出発し、中心部に位置するケエリノ・グランドスタンドに集結した。その数約100万人と伝えられた(実際は50万人をこえる程度とみられた)。

集会では、コリー・アキノ夫人や実弟のブッティ・アキノらが演説、マルコス軍の退陣と警察軍によるサルベージなど人民への弾圧をやめるよう要求し、経済危機打開などを中心に訴えた。またフィリピン反基地連合議長タニヤダ氏も演説を行なった。

そしてこの日、アメリカから届けられたアキノ等身大のブロンズ像が除幕され、集会のクライマックスをむかえた。この集会は一見アキノを英雄としてたたえ、彼個人の哀悼のためのものと受けとら

へ(の模索)。ビキニ水爆実験による被災の事実を新たに掘り起こし、反核平和の世論に貢献したことが認められての受賞となった。

また、今回惜しくも受賞を逸したが、朝日新聞の核問題シリーズ、草土文化「母と子で見る写真集」、パンフレット「核戦争三分前」の発行など反核運動に積極的にとりくんだ日本生活協同組合連合会なども候補に上げられた。

集会には、約二百人が参加。反核平和のジャーナリズムの潮流を作るための大切さを確認し合った八・一五であった。

- 第四回久保山忌句会
- ▽期日 9月23日(日)秋分の日
 - ▽集合 午前10時、第五福竜丸展示館
 - ▽句会 午後1時より、江東文化センター三階、第四、五研修室(地下鉄東陽町駅下車、江東区役所裏)
 - ▽会費 五百円
 - ▽主催 第四回久保山忌句会実行委員会(第五福竜丸平和協会・新俳句人連盟・原爆忌東京俳句大会実行委協賛)
 - ▽投句も歓迎

一九七〇年以降の核・原水爆禁止運動・基地問題などに分類された新聞のスクラップや、運動の中で作られたビラ、チラシ、パンフレットなどをファイルした資料でダンボール十箱余。ほかに、きのこ会の『原爆が遺した子ら』はじめ、いまではなかなか手に入らない被爆関係の書籍五十余冊。ちょうど前日に東建従の加藤庄太郎さんが作ってくれた立派な本棚におさめられた。また、埼玉県吉村道興さんからも二回にわたって宅急便で、資料が寄贈された。

八月末、千葉県船橋市の御園雅さんが車いすに「資料」を積んで展示館を家族とともに来館。みてそうではないことがわかり、驚いた。この三〇年間、精神的にも、社会的にも大きな負担を追い続けていた。また、半数以上が、「核」への危機感を抱いていた。「かつて自分は、光を見た。今度、光を見たら終しまいよ」――乗組員のひとりが語った言葉が印象的でした。

J C J 奨励賞受賞

川井記者の談話

まず、取材に応じてくれた方々にお礼を言いたい。このシリーズは、年間企画として支局全体で決めたものです。第五福竜丸乗組員を取材する前は、三〇年前のことだから、思い出として残っている位と考えていたが、実際に会って

れがちであるが、今日までの外国支配やマルコス軍事独裁政権によって犠牲となった無数のアキノの死を哀悼する集会でもあった。また集会はマルコス退陣を要求する一点ですべての反マルコス勢力が結集して組織されたもので、

夢の島の船の中で出会った君たちへ

元第五福竜丸乗組員、大石又七さんの手紙

中学生の頃をさかいて、考えが色々の方向に変わっていく様に思う。私は、その中学生前の子どもの考えの方が人間らしく好きだ。すなおな心が大好きです。大人の色は科学文明という色かもしれない。あまほ好きかな色ではない。うそ色というような色もまじっているから……。

夢の島の展示館の福竜丸の船の中で出会った和光中学の君たちは、忘れかけていた中学の色を思い出させてくれた。おじさん(本当はお兄さんと思ってる)にも、中学一年生という時があった。戦争に負けて一年目の、なんにも、なんにもない中学一年生でした。生活苦のために中学二年で辞めても卒業免許もらえなかったんだ。それは

君たちの来年にあたるかな? 自慢ばなしではなく、本当は海もまわりの人達もこわくて、毎日心の中で泣いていたよ。一四才で、いやいや船に乗ったんだよ。それから私の色も海の男の色として、日焼けした色に変わったのでしょね、変な色に……、変な回り道をして、変な出会いでしたが、何か大分昔から知っていた君たちの様な気がする。

お手紙本当にうれしく、御返事させていただけます。

昨年十月、大石さんは和光中学(町田市)の生徒たちの要請で、展示館で初めて事件のことを語った。この手紙は、その後、中学生たちのもとに届いた大石さんからの手紙です。